

事務事業名		観光施設修繕事業		所属部	産業観光部	所属課	産業施設課				
総合計画体系	政策名	〈V〉挑戦し活力を産みだすまち〈産業〉		所属G	産業施設グループ	課長名	安部昭彦				
	施策名	〈38〉観光の振興		担当者名	佐藤保興	電話番号	0854-40-1093				
	目的	対象	意図			(内線)	2421				
	基本事業名	〈117〉受け入れ施設の充実		予算科目	会計	款	大事業	大事業名			
目的	対象	意図			0	1	3	5	0	1	観光施設管理事業
	対象	意図			0	5	2	0	5	1	観光施設修繕事業

1 現状把握〔DO〕

(1) 事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (16 年度～)
<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～年度)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
市内観光施設の修繕

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	30年度実績(30年度に行った主な活動) ・市内観光施設の修繕		元年度計画(元年度に計画する主な活動) ・市内観光施設の修繕		
	② 活動指標	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	元年度(計画)
	ア 「38.観光の振興」管理対象物件	件	44	42	42	42
	イ 修繕箇所数(修繕費)	件	10	7	34	12
	ウ 修繕箇所数(工事請負費)	件	0	1	0	0
	エ					

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	元年度(計画)
	①市外からの入込客 ②管理対象物件	ア 人口【国勢調査(推計)】	人	38,506	37,794	37,012	37,496
		イ 観光入込客数	万人	153.0	139.4	129.8	150.0
		ウ 管理対象物件	ヶ所	17	18	18	18
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	元年度(計画)	
①観光してもらう ②適正管理する	ア 日本の人口	千人	126,932	126,706	126,443	124,689	
	イ 観光入込客数	万人	153.0	139.4	129.8	150.0	
	ウ 観光消費額	百万円	4,164	3,739	7月確定 予定	4,300	

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (30年度決算)	② コストの推移	単位	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(決算)	元年度(計画)
【修繕費】6,123千円(34件) 大 東:1件、216千円 木 次:12件、1,791千円 三刀屋:6件、808千円 吉 田:4件、661千円 掛 合:11件、2,647千円	財源内訳	国庫支出金	千円			
		県支出金	千円			
		地方債	千円			
		その他	千円			
	一般財源	千円	995	2,176	6,123	3,240
	事業費計(A)	千円	995	2,176	6,123	3,240
人件費	正規職員従事人数	人	8	5	5	
	延べ業務時間	時間	100	80	80	
	人件費計(B)	千円	397	326	347	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	1,392	2,502	6,470	

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
・中国横断自動車道尾道松江線開通に伴い、広島県域から島根県への観光入込客が増加している。 ・道の駅「たたらば壱番地」から雲南市内観光施設への誘導が課題となっている。	・平成27年度までは、総合センター事業管理課で維持管理を行ってきたが、組織機構改革によって平成28年度より産業振興部産業施設課が所管となった。 ・平成29年度以降については、全市的な考え方から中事業の整理を行った。 ・平成30年度から修繕を本事業に集約。	・市民や利用者から修繕について要望がある。 ・議会から観光施設の適正な維持管理を求められている。

事務事業名	観光施設修繕事業	所属部	産業観光部	所属課	産業施設課
-------	----------	-----	-------	-----	-------

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があると理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合 →		
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？			
B 有効性	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？			
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合 →		
	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？			
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある	理由	市内観光施設の修繕事業であり、修繕計画を策定することで施設の長寿命化が図れるが、老朽化が進みすぎており、後追いの修繕となっている。	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がない			
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		理由	廃止すれば、観光客や利用者からの苦情が発生し、入込客数が減少する可能性がある。
<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有			
D 公平性	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？			
	<input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合 → (具体的な手段や類似事業名)	理由		独立した施設であるため、個々に管理しなければならず、統廃合はできない。
	<input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない			
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)		理由	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない		現在、最低限の維持管理であり、削減できない。施設の老朽化により、今後、修繕や更新の経費は増大すると考えられる。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？			
<input type="checkbox"/> 削減余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由	現在、最低限の修繕でありこれ以上は削減出来ない。施設の老朽化により、今後、修繕や更新の箇所は増大すると考えられるため、人件費も増となる見込み。	
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		理由	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である		市の施設であるので、市の予算で管理することは適正である。
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)	
	A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	B 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり
対応できる範囲での修繕を行った。市内観光施設の修繕事業であり、修繕計画を策定することで施設の長寿命化が図れる。老朽化が進みすぎており、後追いの修繕となっている。今後、修繕や更新の箇所は増大すると考えられるため、人件費も増となる見込み。				

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果																			
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上	●		維持		×	低下		×	×
		コスト																		
	削減	維持	増加																	
成果	向上	●																		
	維持		×																	
低下		×	×																	
市内観光施設の修繕事業であり、修繕計画を策定することで施設の長寿命化が図れる。	<p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>																			